

## 第5回 兵庫便教会 報告

2015年3月15日(日)、伊丹市立東中学校をお借りして第5回兵庫便教会を実施いたしました。今回は「西宮掃除に学ぶ会」のみなさんとの合同開催となりました。

会場の伊丹市立東中学校の校長先生は大谷先生の恩師であり、今年度でご退職されます。校長先生の思いを共有する意味でも、感謝の気持ちを込めてトイレ掃除をさせていただこうということになりました。また、東中学校の先生方も4名参加され、総勢17名での活動となりました。東中学校は、森信三先生の唱えられている「立腰」の精神を取り入れ、毎日の清掃時には、立腰・黙想に始まり「無言清掃」に取り組んでいるそうです。今年度で3年目を終えるとのことでした。



最初に「最近、嬉しかったこと」というエピソードを入れながら、それぞれが自己紹介をしました。時期的に卒業関係のエピソードが多く聞かれました。卒業への思いは教師にとって特別であり、それまでの苦労も、すべていい思い出になる瞬間です。そして、また新たに生徒に向き合うエネルギーが生まれる瞬間です。この時期だからこそその思いを込めたトイレ掃除になりました。

今回は、体育館の男女トイレの掃除でした。8時30分の開始前には、道具はきちんと整頓され、蛍光灯の掃除も済ませて開始されました。今回はリーダーを置かない活動でしたが、みなさんがそれぞれの持ち場だけでなく、手の足りないところへ率先して動かれる姿が印象的でした。

男子トイレの小便器はなかなか手ごわい汚れでしたが、山下校長先生を含む4名の先生方が、真剣に向き合っておられました。初めて参加される先生もいらっしゃったのですが、「最初、素手で便器の中に手を入れることに衝撃を受けました。しかし、経験





されている方は、それをいとも簡単に、自然な姿で便器に手を入れていたということに驚きでした。でも、一度汚れに向き合おうと、もっときれいにしたいという自分も発見しました。」と述べられていました。また、ある先生は「最初、汚れとにおいがきつくて引いてしまったのが、きれいになっていくに従って、もっときれいにしたいという気持ちになりました。そして、

手前の方の汚れをとろうとして、気付けば頭が便器についていました。横を見ると、小便器に向かっている先生が全て同じ状態でした。」という感想も聞かれました。

女子トイレを担当した方は、「トイレ掃除というと、便器を磨くことに一所懸命になるのですが、誰も気づかない場所から手をつけておられました。」という感想もあり、それぞれに多くの学びがある時間となりました。



最後の反省会では、松浦先生から「夢ありがとうカード」について説明していただきました。松浦先生は、映画「日本一幸せな従業員をつくる」を見て、すぐに自分にできることとして実践されました。「日本一幸せな職員室をつくる」と題して、毎日が楽しくて仕方がない職場を作ろうという企画です。「夢ありがとうカード」は、同じ職場で働く人に

対して、ありがとうの気持ちをメッセージに書いてポストに入れるというものです。そして、そのカードの配達人が松浦先生です。その企画を東中学校でもスタートさせたいという山下校長先生の職員に対する熱い思いを伺いました。もちろん生徒が



一番ですが、その生徒に向き合う先生方も大切に思われる山下校長先生の思いが、最後の反省会を温かで和やかな雰囲気にしていました。

(文責：石塚 裕司)

